

公認審判員ための会報誌 9 文責 小藏 力

赤本 800 円

緑本 600 円



コロナの影響で日バの事務所や道協の事務所の閉鎖で遅くなりましたが、新しい**競技規則 (2020-2021)**、**2020 年度版ルール教本**があります、すでに理事や競技責任者に配布済みなので若干残りがあります。購入希望者は直接、私に連絡ください (090-9523-5012) 小藏 (おぐら) まで。

今回の、赤本の表紙にはトナミ運輸の嘉村・園田組、緑本は桃田選手と国際審判員のデンマーク人 Jacob さん、背面表示が加工されているので正確にはわからないが、INA のギンティン選手と思われます。大会はおそらく DYOJ2019 だとおもわれます。Jacob さんは TOKYO2020 オリンピックの審判のメンバーです。当然、国際審判ですから、テレビマッチで見ると、マッチコントロール、コートマネージメントと、座った時の姿勢とフェイスコントロールが特に素晴らしく、審判はチームワークなので、人として「親和性」がより高い人物だと推測されます。しかし、コートに入ると、早川コーチと仲が良くお互いに通称「Mrs. S F」とも呼ばれていますので、「頑固」なところもあると思います。また、国際審判員たちの中で日本は人気があり、行ってみたい国のひとつだそうです。他に、2021 年に延期になったオリンピックですが、2020 年で定年 (55 歳まで) を迎えるオリンピック国際審判員は参加できるのでしょうか？

さて、今回の競技規則の変更点ですが、去年は、緑本を開いたら、赤だらけの変更点でしたが、今回は、新語としてサービス高測定器、IRS (チャレンジ) の判定部分がよりよく整理されました。そして一番気になる点ですが、着衣に関する規程で、広告やロゴの規程ですが、いままではプレーヤーだけでしたが、コーチにも適用されています。もちろん一種の大会での適用ですが、コーチのみなさんは、日バ主催の全国大会で気を付けなくてはならないことです。コーチとは、「コーチ、監督、その他大会参加者 (チームその他の選手) など、マッチ (試合) 中に、コート競技区域内にあるコーチ席に座る可能性のある者を指す。」緑本にも「レディースアンドジェントルメン」が追加され、交換ラケット後の試打の禁止。公認審判員規程にレフェリーの大会管理について述べていますが、レフェリーについては本来まだ足りていない項目があります。あと新しい全国大会が追加、トスはどちらかのサイドで行うなど。細かいところはありますが、気になる方は購入してご覧ください。

- 不特定多数の方が使うものは、コロナ感染に伴い、主審席、カゴ、インターバルボードを廃止、マイク、コーチ席、線審席、得点板、筆記用具（シャープペンシル、バインダー、ストップウォッチ）の試合ごと消毒スプレーガスで対応。でも、便利な分、すぐにガスがなくなるのが難点。消毒費にお金が・・・
- 主審の控え席「三密状態」避けるため本部席に設けることができず、自分の観客席に戻ってもらい放送後本部席に来てもらうスタイルにしました。タイムスケジュールはいつもより多めに取ったので正解でした。（試合数が多い場合は、どうするか？）
- 得点板係は、主審がマスクをしているのでコールが聞こえづらく、主審のハンドシグナルが必要かもしれない。そうすることが今後ベターなのかもしれません。



観客席は、席を空け、応援も拍手のみ開会式の整列、選手宣誓もない、少し寂しい大会でしたけど、**みんなの笑顔と元気なプレーを観られて、審判のお手伝い**ができたことにホッとしました。

最低限のコールでいいことになっていますが、私は調子が狂ってしまい、2回目からはきちんとコールしてしまいました。



握手・ハイタッチに代わるもの？

ソーシャルディスタンスを取るためパートナー同士のハイタッチや試合後の握手は禁止になりました。ソーシャルディスタンスをしっかりと取り、代わりとして「**エアータッチ？**」などはいかがでしょうか、握手・ハイタッチに代わるものを、自主的に考えてもらい、パートナーや相手選手との**心のディスタンスだけは縮めてあげる**ことが大切なのではないでしょうか。



風が大敵のバドミントン？

- 常時換気について、今大会は、ガイドラインに従い、5つのドアを開放、青ビニールシートで目隠し、常に換気をしていたが、「風が敵」のバドミントン。ドア付近は多少影響があったが、コーチや選手の理解によりクレームが無く。今後は、風が強い、寒い日などは、別の対策が必要と感じた。ビニールシートは遮光のためシャトルが見やすいように濃色（安価を考えると青色のビニールシートが理想）これは、夏場の熱中症対策にもなります。



- 審判をした人とこれから敗者審判をする人で本部席が三密状態になりやすく、今後は、スーパーやコンビニでよく見るこのマークを4枚ほど作り、間隔を空けて床に貼って密接を避ける。対策が必要だと思います。



① 試合が終わった審判

- 今回は、体育館の玄関で混雑しないように、各チーム時間を決めて入場したこと。
- 公開練習も、一度に練習できる人数を制限したこと。
- 今回は、本部席には、飛沫防止用のビニールシートを用意できたこと。



- 飛沫防止のため、ポータブルスピーカーを用意でき審判打ち合わせに役立った。
- 大型デジタル時計を用意できた。(時間管理の共通認識)
- 初の整列なしの開会式
- たくさんの消毒液が確保できたこと。

色々なことが、初めての経験でうまくいかなかったこと、うまくできた事を振り返りながら、次回の大会の宿題として考えておきます。

オーバーコールは、「諸刃の剣」

主審において、私は明らかな間違えで、**絶対の確信**がないと、線審の判定を変更しません。周りの観衆やコーチ、選手のアピールで「すぐに、変えてしまうと」、頭のいいコーチや選手などは、メンタリスト DAIGO のように自分たちに有利な方向でジャッジを誘導されてしまいます。また、「会報誌7」にも**線審との信頼関係**について述べています。「自分の合図を信じてくれない主審」に次のラリーでちゃんと線審が合図してくれるでしょうか？大人ならまだしも、小さな子ならショックを受けるでしょう。そして、自分の担当のラインも神の目を持つ大人の主審に頼り切り、自信を無くしてやがて合図をしなくなります。

大切なのは線審の目線です。自信もって合図する人は主審にアイコンタクトを取ります。そうでない人は、主審から目をそらします。「試合はプレーヤーのもの」であるが原則ですが、大人の主審はそこを見抜いてあげて、状況を判断し、見えなかったと処置をして、また**選手たちの力量も加味**しながら、オーバーコールよりも突発的な処置としてレットやそのままの線審の判定を採用し、選択した方が良い場合もあります。否、という方もいると思いますが、審判の仕方に色々な考え方はあると思います。私は、その方法が、線審を育てフォローしてあげる、その方が**主審として人間味や深みのあるいいジャッジ**できると思います。



コロナの関係で、カゴの設置が禁止され、全員、**バック等**を持参して**試合入場**しました。

いつも、本部席に忘れ物として届けられるラケット、タオル、飲み残しのドリンクが無かったような……

「コロナ過で大会開催することへの大きな一歩」

3月から全国大会や道大会、地区大会が中止されるなか、地区協会は、日バのガイドライン、体育館施設の使用ガイドラインを踏まえ、8月22日（土）に東ロータリー杯小学生大会が苦総体で開催されました。

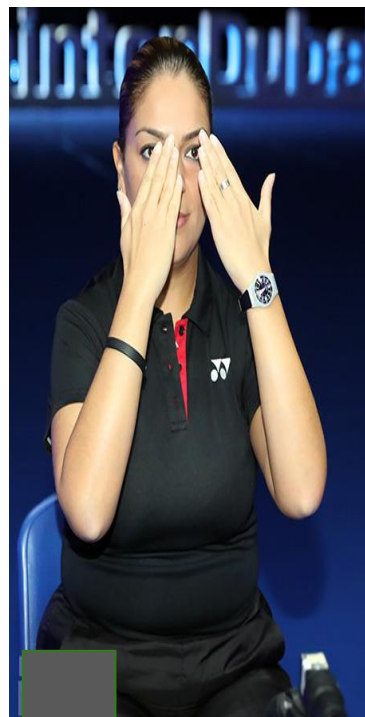
中・高体連の大会が中止なり3年生は無念の引退するなか。小学生は何とか、大会を実施したいという願いからスポンサーの東ロータリー、役員、各クラブや少年団の指導者、保護者のみんなの協力のもと大会を実施することができました。



本来なら、この大会は、高校生が設営と主審のお手伝いをしていただいたのですが、コロナ過のため学校行事の変更や感染拡大防止の観点から頼めず、今回は、各クラブから派遣主審（大人）、敗者主審制（子供）をとる形になりました。

12面コートで、22名（派遣主審）の協力があり、何としてでも子供たちに試合をさせてあげたい願いからたくさんの方の協力で大会を運営できました。審判を手伝ってくれた方、消毒を手伝ってくれた方、コート設営を手伝ってくれた方、すべての人に感謝します。

特に、松尾先生ご苦労様でした。この大会は大きな一歩でした。



小学生の線審のみなさんへ

経験値が浅い小学生の線審の皆さんは、試合の中で、シャトルの落下点が見えなかった（わからない）という場面があると思います。

無理にイン・アウトの判定をしてトラブルにならないよう、線審の合図には、写真の図にある「見えなかった」という合図があります。

そして、判定を主審に委ねることができます。その後、主審はイン・アウトを判定、わからない場合はレット（無効・やり直し）となります。また、主審は線審が担当する試合のレベルに達していないと判断した場合はレフェリーを呼び、レフェリーと協議して線審を変更することができます。

■ ウイルスの恐怖(変わるルールとリモート審判?)

14世紀に欧州で流行したペストは「人と目が合っただけで」感染するとデマが流れ大混乱、その後、多数の死者を出し、封建社会が崩れ、ルネサンス、資本主義、産業革命へと社会が変化しました。今回のコロナも現在の当たり前が崩壊し、新しいルールが作られようとしています。

将来、抗ウイルス素材の超速乾ウェアが開発され、スピードスケートのような全身タイツなり、抗ウイルス加工の軌道計算できるセンサー付きシャトル、ラインやフォルトを自動判定できるカメラアプリの開発、それと連動した得点板タブレットができ、リモートで主審、コートの汗拭きは全自動ルンバ型モップ拭きの出現でコートスタッフいらず、コートは選手のみ、スマホ解禁でリモートでコーチ。監督会議、お知らせの放送はリモートやSNSのみとなる時代が来るかも？しかも、参加費は電子決済払いで1種目20,000円？あなたなら参加する？